

現代倫理道德研究会（発表要旨）平成 30 年 5 月 9 日

文化を受けつぐということ

生命環境研究室

客員教授 小山高正

今西錦司と共にニホンザルの野外研究を始めた伊谷純一郎は、群れのインセストを回避する同性・異性間の反発関係をもとに、霊長類の社会集団の多様性を 6 つの Basic Social Unit として示した。その内の母系制、父系制、双系制の社会は集団の継承性が保証されるシステムであって、霊長類集団のもつ伝統や文化が世代間で伝えられていく可能性が示唆された。リチャード・ドーキンスが提唱したミーム (meme) は、遺伝子と同じように、ある行動プログラムが神経回路として脳内に蓄積され、模倣によって同世代・異世代に伝えられていくメカニズムを説明したものである。一方、リチャード・バーンは、近著『洞察の起源』で、大型類人猿が示すプログラム模倣が行動を分節してその構造と効果を認知する能力とその因果関係を理解し、計画を立てる能力によって可能になることを示し、さらにヒトが示すメンタライジングする（他者の心を読み取る）能力には言語が関わっていることを示唆した。ヒトの文化の継承メカニズムを探るため、今後 E・トッドの家族システムや G・タルドの模倣の法則を研究したい。